



【トリチウムの脅威、原発の新たな危険性を確認！

5月13日京都測定所・開設6周年のつどいを開催しました】

京都・市民放射能測定所を支えてくださっている皆様へ

5月13日の当測定所開設6周年のつどいは、50数名の方にご参加いただき大成功でした。京都新聞の市内版にも記事が掲載されました。ご参加・ご協力いただいた皆様に、心から感謝いたします。

今回は京都の北部の大飯・高浜原発が再稼働するという情勢の中での開催でした。森永徹（もりながとおる：元純真短期大学・健康科学 医学博士）さんには原発と再処理工場から放出される「トリチウム」によって、白血病増加などの健康被害が発生していることを講演していただきました。市川章人（いちかわあきと：京都自治体問題研究所）さんからは、日本海で海底地すべり津波が発生する危険性が明らかになるなど原発推進勢力の矛盾がますます深まり、私たちの方に展望があることを示していただきました。

会員総会では、当測定所が築いてきた研究者の方たちとのつながりを生かし、最先端の研究成果を学ぶ学習会の継続開催を行うことを確認しました。魅力のある測定所主催の企画をつくり、会員・一般の方が足を運んでもらえる測定所にしていき、会員拡大と測定依頼の拡大をめざし、財政基盤を建て直していきます。そして新たな方針として、郵送による測定検体の受付を6月からスタートすることを決めました。

参加された方からは「講演がすばらしかった」「測定所は大切な存在」など、あたたかい感想が多く寄せられ、運営スタッフ一同、大きな励みになりました。

ぜひ、これからも京都・市民放射能測定所をよろしく願いいたします。

2018年6月23日

京都・市民放射能測定所 事務局長 佐藤和利

会報第12号の内容

【2面】開設6周年つどい 森永さん（トリチウム）、市川さん（原発の新たな危険）の講演内容紹介

【3面】気になる測定結果 保育園の給食食材「干し椎茸」のお話 今年是不検出に。

【4面】7月15日（日）勉強会（復興庁パンフ「放射線のホント」批判）ご案内、測定所からのお願い

森永 徹さん(元・純真短期大学講師 医学博士)の講演

森永さんは「人口動態統計」や各種文献をもとに九州の玄海原発がある玄海町や隣接の唐津市で白血病による死亡率が増加していることを明らかにされました。(下図)

その原因が運転中の原発から放出されるトリチウム(放射性水素、玄海原発が全国一放出量が多い)にあることを示されました。

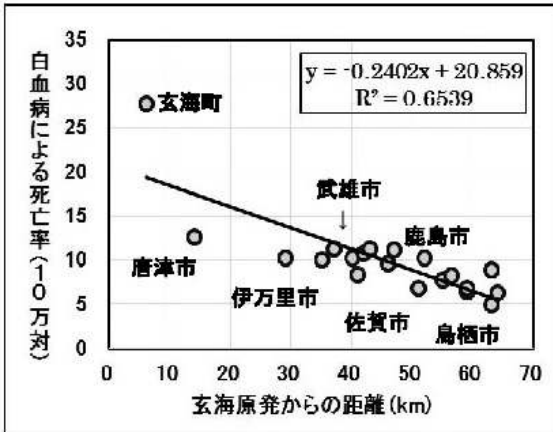


図2) 佐賀県自治体の玄海原発からの距離と白血病死亡率(稼働後)

原発から排出される放射性廃棄物について濃度規制はあっても総量規制はなく、薄めればどれだけ排出してもよいことになっています。(福島原発事故の汚染水からトリチウムを除去できないので、薄めて海洋放出すればよいという原子力規制委員会の考えの基になっています。)

トリチウムは、世界各国の原発周辺で健康被害をもたらしており、生物濃縮され、DNAを損傷させるという脅威も、講演の中で明らかになりました。

そして核関連施設が集積する青森県六ヶ所村では、2006年から使用済核燃料を用いて施設の性能を確認するアクティブ試験が実施されました。それでトリチウムの放出量が激増(2007年では玄海原発の約18年分を放出)し、六ヶ所村でも白血病死亡数が増加する傾向がみられると報告されました。

まさに、原発は国民の健康とは相いれないものであることがよくわかりました。(S)

市川章人さん(京都自治体問題研究所)の講演

市川さんは、まず原子力規制委員会がブレーキではなく再稼働申請をことごとく認可する暴走アクセルになっていることを批判されました。「新規制基準」が「絶対的な安全性は達成できない」という立場で、放射性物質が外部の環境に放出されることも「相対的安全性の内だ」とする

私たちの命と生活を考慮しないものになっていることを示されました。

そして世界的にも、ベトナムや台湾などで原発撤退の方向に向かい、原発建設費も高騰し、原発を推進することがますます困難になっている状況がよくわかりました。

さらに、原発が連続大地震に耐えられるか疑問が出ていること、火山の破局的噴火の影響が新たな問題として示されていることを示されました。特に、京都北部の若狭の原発にもかかわる日本海側の「海底地すべり津波」の問題(左図)がクローズアップされ、現在の津波対策では全く不十分であることを明らかにされました。

最後に、自治体が立地自治体並みの安全協定を締結し、原発再稼働への同意権(=拒否権)をもつことの重要性和、それを求める運動をおこしていくことを提案されました。





気になる測定結果

放射能測定を続けて来て、京都府の原木椎茸や火鉢の灰から放射性セシウムが検出されたことがあります。原木椎茸のホダ木や火鉢で使っていた炭も京都府産でした。火鉢の灰は30年以上前、チェルノブイリ原発事故以前から物置きの中にしまっていたもので、過去に大気圏内で行われていた核実験の影響で放射性セシウムが検出されたと考えられます。

そして四国、九州、中国地方の椎茸からの検出例もあり、市民が放射能測定をすることがなかった、あるいは知らなかっただけで、福島第一原発事故以前から人工の放射性物質による環境汚染があり、放射能汚染された食品を食べていた可能性があることを知りました。

また、半減期が30年のセシウム137の長さというものを改めて感じました。

今の子供たちが大人になってもまだ半分にしか減らないのです。

給食の食材の測定を定期的に依頼していただいている保育園さんが使用予定の干し椎茸を測定したら約6ベクレル/kgの放射性セシウムが検出されました。2014年のことです。

翌年の2015年に測定した時も約3.3ベクレル/kgの放射性セシウムが検出されました。

国の基準値よりも低い値であり、干し椎茸なので水戻しをして1食で食べる量にすると極々わずかなものなのですが、数値とグラフにはっきり検出とわかる結果だったので、「子供達にはできるだけ安全なものを食べさせてあげたい」と給食に使うのはやめられました。

2016年には生の状態で測定し不検出でしたが、乾燥して濃縮すると検出されるかもしれないということで引き続き保育園の給食に使われるのを控えられました。

そして1年空けて今年2018年に京都府産の干し椎茸の依頼を受け測定したところ、測定機の検出判定にもスペクトルグラフにも放射性セシウムは検出されず、給食に使っていただけた結果となり、とても喜んでいただきました。



京都府産干し椎茸（保育園からの依頼）
放射性セシウムの測定結果

2014年測定 約6ベクレル/kg

2015年測定 約3.3ベクレル/kg



2018年測定 不検出

放射能汚染された食品の流通を監視するのも大事ですが、こうして測定することで安全なものを安心して美味しくいただくことにもつながるので測定を続けていくのは大切だと感じました。

福島第一原発事故から7年経ちましたが測らなければ安心して食べられない食材もまだまだあります。

特に小さいお子様には安全、安心な食品を食べていただきたいです。(K)

測定所全体ミーティング

★毎月1回開催しています。次回は、
7月15日（日）13時～14時
場所は丹波橋測定室です。関心のある方
の参加、大歓迎です。

【資料閲覧のおすすめ】

丹波橋測定室では、福島県の新聞の記事を
スクラップしています。
放射能関連の書籍や映像等も閲覧できます
ので、ぜひご利用ください。

7月15日復興庁パンフ『放射線のホント』批判の勉強会します

みなさん！復興庁が出したこのパンフのこと知ってますか？大きな文字で子供向けの絵本のようなつくりです。子供、若者をターゲットにしたものですね。

内容は「100～200ミリシーベルトの被ばくでの発がんリスクの増加は、野菜不足や塩分の取りすぎと同じくらいです。」「(福島原発事故で)健康に影響が出たとは証明されていません。」などと書かれています。まさに、意図的に放射線の危険を隠し、福島原発事故の影響を低めようという悪意に満ちたものと言わざるをえません。最後のページに「この冊子は「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」を基に作成されています。」とありますので、こうなってしまうのでしょうか。

当測定所として見過ごすわけにはいきませんので、このパンフを批判する勉強会を企画しました。

7月15日（日）14時～16時 丹波橋測定室にて

講師は批判論文を書かれた渡辺悦司さん（政治経済学・経済史学会会員）です。

ぜひ、ご参加ください。（スペースの関係で先着15名様といたします。）

申し込み先 丹波橋測定室 shimin_sokutei@yahoo.co.jp

または佐藤まで 070-5664-2713 satokazu@wave.plala.or.jp

（勉強会資料は、当測定所ホームページの『論文書庫』に掲載中です。ぜひ見てください。）

会員のみなさまへのお願い

京都測定所をいつもご支援いただき、スタッフ一同感謝しております。

しかし、今後も引き続き測定所の運営を続けていけるかどうかは、現状のままでは大変厳しく、みなさまからの会費と測定依頼に頼るしかありません。

会員の継続（年会費納入）を、心からお願い申し上げます。

なお、右記の口座に年会費を振り込んでいただいた方には、後日新しい会員証をお送りいたします。よろしく願いいたします。

◇年会費（会員になった日から1年間）

正会員 4千円

サポート会員 2千円

◇以下の口座に振込んでください。

・郵便振替口座

00990-8-147255 京都市民測定所

・ゆうちょ銀行

14440-6770961 京都市民測定所

（他銀行からの場合）

店名 四四八 店番 448

普通預金 0677096 京都市民測定所



京都・市民放射能測定所 事務局

〒612-0066 京都市伏見区桃山羽柴長吉中町 55-1

コーポ桃山 105 号部屋

TEL/FAX 075-622-9870

E-mail : shimin_sokutei@yahoo.co.jp

<http://nukecheck.namaste.jp/> <http://crmskyoto.exblog.jp/>